

第 8 章 河道特性

山国川の流域は、大分、福岡の 2 県にまたがり、その流域面積は 540km²、幹川流路延長は 56km で、流域の形は扇形状を呈する。

山国川は多くの支川を集めながら、始めは南東に向かって流れ、山国町で北東に流向を変えた後、山間部を通り過ぎ、再び北に向かって流れを変え周防灘に注ぐ。

幹川の平均縦断勾配は急なうえ、流域内の平地も少なく、典型的な山地河川である。

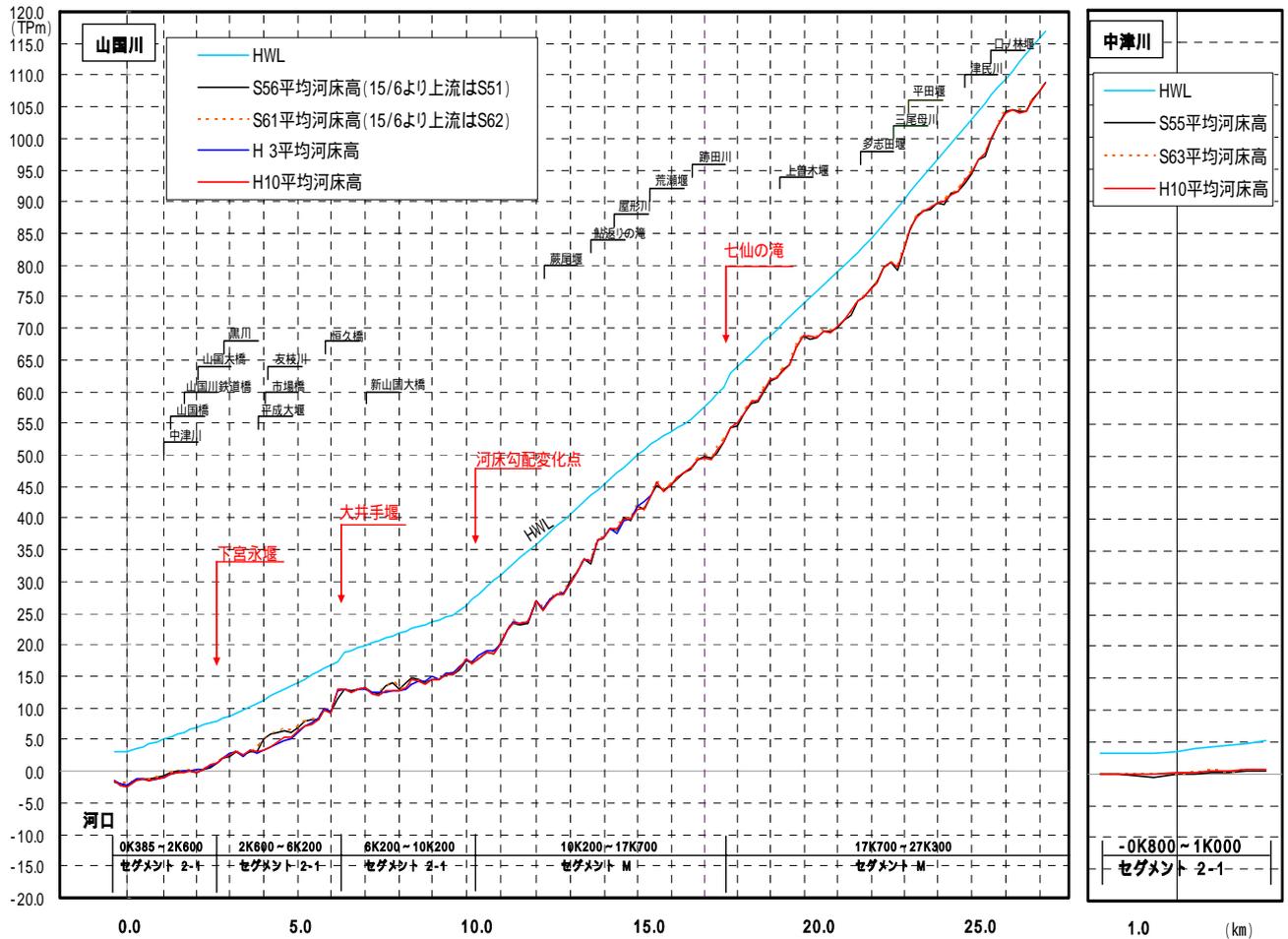


図 8-1 山国川 平均河床の経年変化図

8 - 1 上流部(中津市山国町守実^{もりま}地点上流)の河道特性 (39.0km 付近)

山国川の上流部は、大分県中津市山国町英彦山^{ひこぎん} (標高約 1,200m) の東斜面を水源とし、幹川は英彦山の北東にある野峠^{のとうげ}付近 (標高約 650m) から溪流となる。

流路は、国道 496 号沿いに南東方向へ流れ、途中、彦水川、田良川、上志川^{かみしがわ}等の支川を合流しながら中津市山国町守実 (標高約 200m) に至る。

この区間の大半は山間部で川幅が狭く、河床勾配は 1/20 ~ 1/100 程度と急である。また、瀬と淵が連続的に現れ、河床材料は岩塊や巨石、玉石が多く、山地溪流の様相を呈している。



写真 8-1 山国川上流域 (中津市山国町守実地区付近 : 39.0km 付近)

8 - 2 中流部(守実地点～百留地点)の河道特性 (39.0km～11.0km)

中流部は、大分県中津市山国町守実地点から福岡県上毛町百留に至る区間である。

山国川は、守実地点から国道 212 号沿いに北東方向に流向を変え、中津市耶馬溪町に入り、かなよしがわ 金吉川、やまうつりがわ 山移川、つたみがわ 津民川等を合流、さらに中津市本耶馬溪町に入りあとだがわ 跡田川、やかたがわ 屋形川等の支川を合流した後、右岸は大分県中津市三光町、左岸は福岡県上毛町の県境を流れる。

中流部は、河床勾配が 1/200 程度と急で、瀬と淵が交互に現れ、あらせせき 荒瀬堰や わらびおせき 蕨尾堰に代表される固定堰が数多く有り、堰上流の湛水面を形成している。河床材料は岩塊や巨石、玉石が多い。

また、支川山移川の山国川合流手前には、耶馬溪ダムのダム湖が形成されている。



写真 8-2 山国川中流域 (13k～15k 付近)

8 - 3 下流部(百留地点下流)の河道特性 (11.0km 付近)

下流部は、上毛町百留から河口までの区間である。

山国川は、百留地点から北向きに流向を変え、右岸は大分県中津市、左岸は福岡県上毛町、吉富町の県境を流れる。途中、上毛町で友枝川、吉富町で黒川を合流した後、中津市で中津川を分派し周防灘に至る。

下流部は、川幅が急に広くなり、緩やかに蛇行し、河床勾配も山国川で 1/500 ~ 1/1,000 程度、中津川で 1/2,500 程度と緩やかになる。河床は大井手堰、平成大堰、下宮永堰等の湛水区域が広がり、瀬・淵はあまりみられない。河床材料は、礫や砂礫、砂で形成される。

また、下宮永堰から下流は感潮区間となる。



写真 8-3 山国川下流域 (平成大堰付近 : 4.0km 付近)



写真 8-4 山国川、中津川河口部付近